

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 4 巻第 11 号

第 11 週 ( 3 月 8 日 ~ 3 月 14 日 )

発行年月日:平成16年(2004年) 3月 19日

発行 行 :滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

\* 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律が平成15年11月5日から施行されました。

### 1) 全数報告の感染症 (1類 ~ 5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (11週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (11週)	全国 (11週)	滋賀	全国 <sup>(*)</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	1	3	67	7	459
	パラチフス	0	0	3	0	38
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	72	8	2635
4類感染症	エキノコックス症	0	0	9	0	17
	オウム病	0	0	6	1	44
	ツツガムシ病	0	0	45	1	380
	レジオネラ症	0	0	19	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	2	100	3	504
	ウイルス性肝炎	0	0	49	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	33	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	12	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	1	175	8	949
	梅毒	0	2	90	2	493
	破傷風	0	0	7	1	69
	急性脳炎	0	0	4	0	98

(\*) 平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

### 2) 定点把握の対象となる5類感染症

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								前週との比較(定点当たり患者数)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	3.84	6.00	4.00	2.00	1.25	3.00	5.00	6.67	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.06	0	0.33	0	0	0	0	0	
A群溶連菌咽頭炎	2.00	0.29	2.83	2.25	5.20	0.75	0.40	3.50	
感染性胃腸炎	10.52	12.71	23.67	13.00	5.20	4.00	2.40	5.00	
水痘	1.36	1.43	2.33	0	0.60	3.00	1.00	0.50	
手足口病	0.09	0	0	0	0	0	0	1.50	
伝染性紅斑	0.48	0.29	2.17	0	0	0	0.20	0	
突発性発疹	0.39	0.43	0.50	0.25	0	0.25	0.40	1.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎	0.36	0.14	0.67	1.50	0	0	0.20	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.71	0	0	4.00	0	1.00	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.43	1.00	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>) において公表されています。

0 2 4 6 8 10 12  
定点当たり患者数

### 3) 今週のトピックス

#### インフルエンザの発生は順調に減少 感染性胃腸炎の発生は増加傾向持続

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(3月1日～3月8日)の報告数よりやや減少していますが、感染性胃腸炎の報告数については、第8週(2月16日～2月22日)から連続4週間増加しています。また、定点当たり患者数については、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑および流行性角結膜炎で増加し、インフルエンザ、水痘、流行性耳下腺炎等で減少しています。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数 6.82よりさらに減少し3.84となり、全国の発生状況についても第5週(1月26日～2月1日)をピークとし減少傾向となっています。

**A群溶連菌咽頭炎**については、先週の定点当たり患者数 1.15より増加し2.00となり、昨年の同時期の定点当たり患者数 0.47よりかなり多くなっています。また、**八日市**、**今津**保健所管内の定点当たり患者数はそれぞれ5.20、3.50と多くなっています。

**感染性胃腸炎**については、先週の定点当たり患者数 8.24よりさらに増加し10.52となり、特に、**草津**保健所管内において23.67と多くなっています。また、第7週(2月9日～2月15日)以降、幼稚園や小学校における集団発生が増加していますので、引き続き感染予防に対する十分な注意が必要です。

#### < 感染予防について >

##### ・十分な手洗い

せっけんを使用し、流水で10秒以上、十分に指をこするようにして洗う。  
食事の前、トイレの使用後、汚物の処理後には必ず手を洗う。

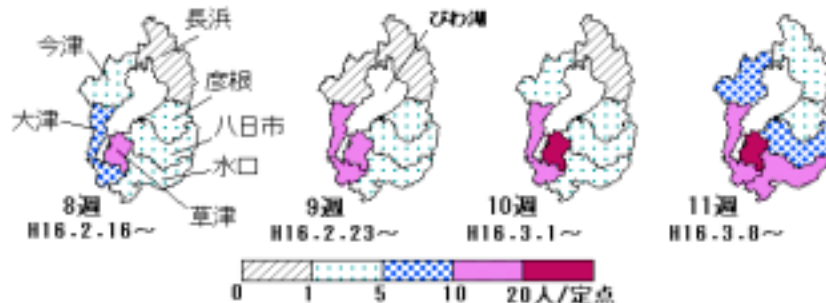
・手を拭く時は清潔なタオル、ハンカチを使い共同では使用しない。

・汚物(下痢便、吐物など)を処理する時

ゴム手袋やマスクを使用し、周辺に拡散しないようにして消毒する。

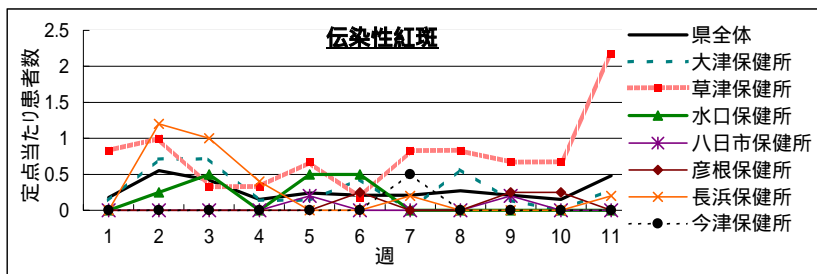
**伝染性紅斑**(リンゴ病、ほっぺ病)については、先週の定点当たり患者数より急増し、特に、**草津**保健所管内で2.17と多くなっています。

#### 感染性胃腸炎の週別発生状況(平成16年第8週～11週、H15.12.29～H16.3.14)



感染性胃腸炎の第8週～第11週の発生状況についてみると、すべての保健所管内において定点当たり患者数は増加しています。第10週には大津市の特別養護老人ホームおよび守山市の小学校で、第11週には守山市の幼稚園、大津市の幼稚園および志賀町の小学校で感染性胃腸炎の集団発生がみられました。

#### 伝染性紅斑の保健所管内別発生状況(平成16年第1週～11週、H15.2.16～H16.3.14)



・潜伏期 : 4～20日

・臨床症状 : 両ほほに紅い蝶翼状の発疹(リンゴのほほ)が現れ、1～2日後に腕の外側や太ももに網目状の発疹が現れます。

・治療 : 特別な治療法はありません(自然に回復します)。

・予防 : 妊婦が感染すると流産することもあるので、流行時にはカゼ様患者に近づかないようにすることが大切です。

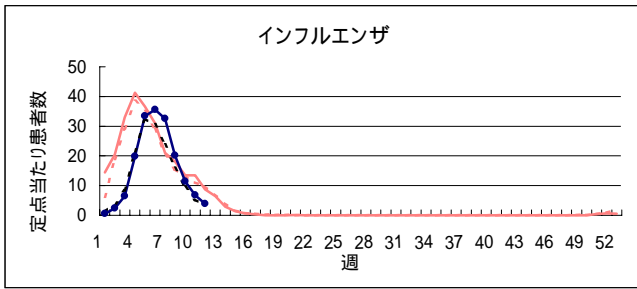
・登校、登園のめやす:

発疹が現れた時には、感染力はほとんどなくなっています。

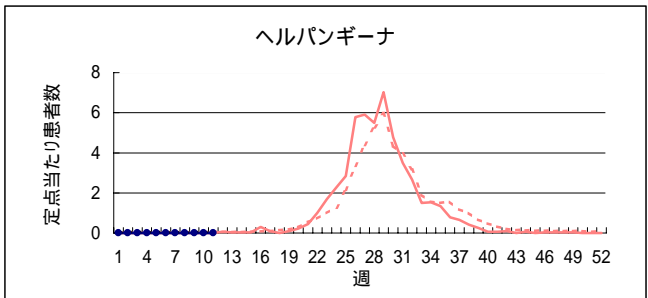
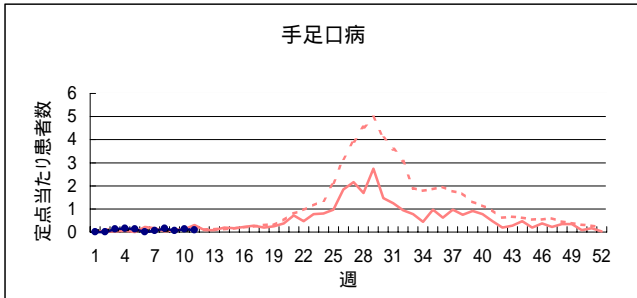
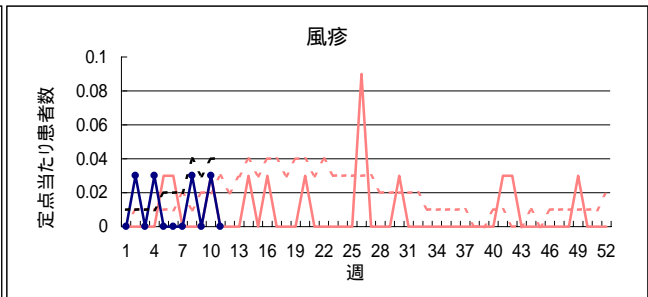
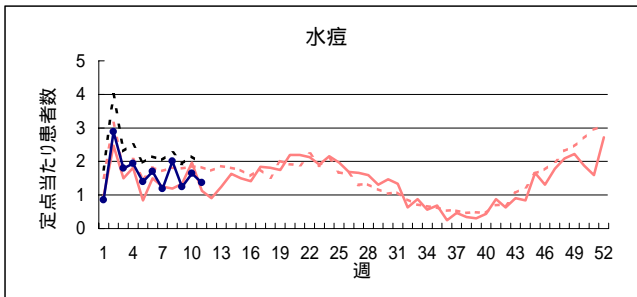
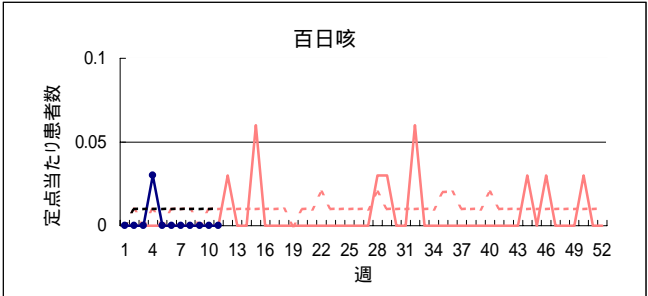
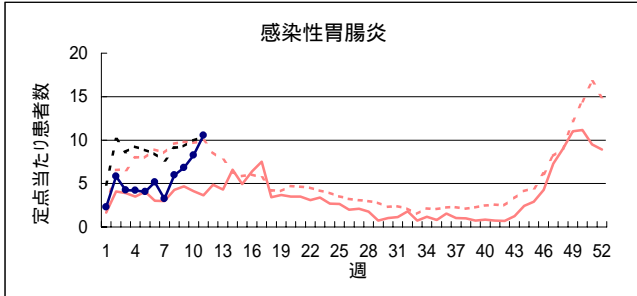
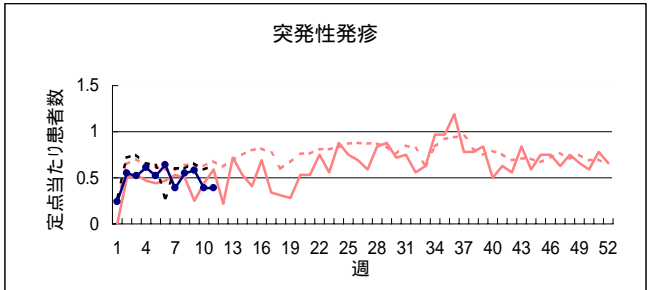
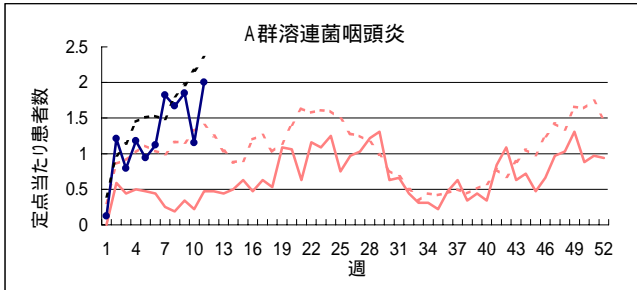
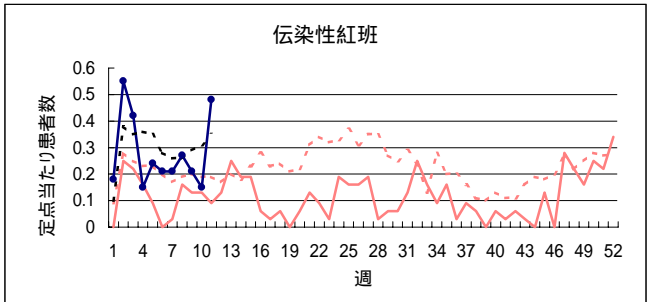
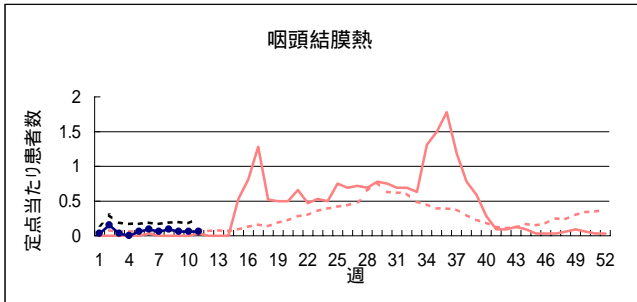
#### < 伝染性紅斑のミニ知識 >

ヒトパルボウイルスB19型に感染することにより起こる疾患で、幼少児(2～12歳)に多く発生します。

# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第11週)



H15 { 滋賀 (solid red line)  
       全国 (dotted red line)  
 H16 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
       全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第11週)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 ..... 〕  
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 ..... 〕

